

info DRIVE ジャマガジン

# Jamagazine

Japan Automobile

Manufacturers Association

日本自動車工業会 広報誌

JAMA vol.53  
2019 11 月号  
[November]

「第46回 東京モーターショー2019」特別号



JAMA

社団法人 日本自動車工業会

### JAMAGAZINE 2019年 11月号

発行日 2019年10月23日  
発行人 一般社団法人 日本自動車工業会 広報室  
発行所 一般社団法人 日本自動車工業会  
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館  
広報室 kouho2@mta.jama.or.jp

©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会



1 豊田 章男 会長  
2 3 4 第46回 東京モーターショー2019



02

特集

## 「第46回 東京モーターショー 2019」

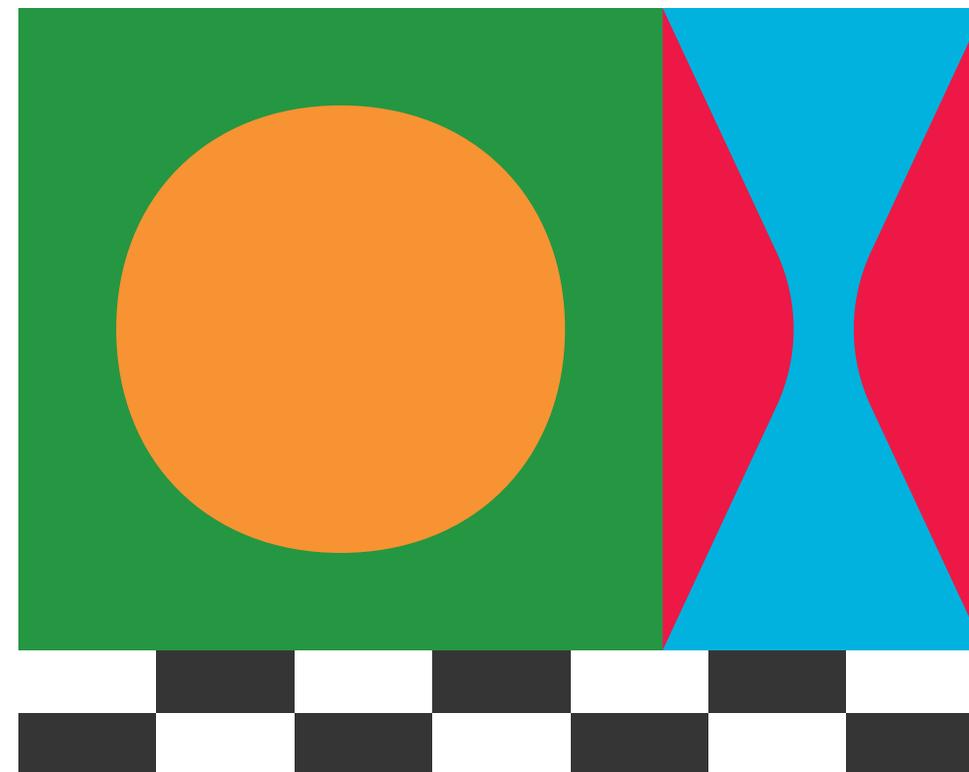
11

### 自工会会員企業14社の出展概要

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| いすゞ (p12~)       | 川崎重工業 (p14~)    |
| スズキ (p16~)       | スバル (p18~)      |
| ダイハツ (p20~)      | トヨタ・レクサス (p22~) |
| 日産 (p24~)        | 日野 (p26~)       |
| ホンダ (p28~)       | マツダ (p30~)      |
| 三菱自動車工業 (p32~)   | 三菱ふそう (p34~)    |
| UD TRUCKS (p36~) | ヤマハ (p38~)      |

40

### 会場へのアクセス



# OPEN FUTURE TOKYO MOTOR SHOW 2019

Oct 24 (Thu) – Nov 4 (Mon)  
Tokyo Big Sight & Odaiba Area

●JAMAGAZINEは自工会WEBサイトからもご覧いただけます

[www.jama.or.jp/lib/  
jamagazine/index.html](http://www.jama.or.jp/lib/jamagazine/index.html)



# 開催に向けての 抱負



丸本 明 副会長

今回の東京モーターショーは、日本の自動車産業が戦略産業として、未来に向かって新しいステージに進むためのきっかけとなる、とても重要なイベントとなると認識しています。我々、自動車産業自ら変革し、自動車の枠を超えて、様々な業界の皆様とともに、オールジャパンで、暮らし、街の課題解決に取り組む、日本の経済、社会の発展に引き続き貢献していく必要があると感じています。その一環がMEGA WEBで行われる、FUTURE EXPOということになると思います。自動車産業にかかわらず、日本の様々な企業が未来の商品を出展し、まさにオールジャパンで実現する未来の生活を、来場していただいた方々に体感していただきたいと思ひます。是非メディアの方々にも体感いただき、未来の生活を広く報道いただくと幸いです。

会長会見から抜粋



神子柴 寿昭 副会長

今年のモーターショーはOPEN FUTUREをテーマに、従来以上に多様な業種、自動車業界の枠を超えたオールインダストリーということで連携を深めまして、多様なプログラムを提供することによって、ショー自体が新たなモビリティショーとして生まれ変わり、より多くのお客様に楽しんでいただきたいという思いを強く持っています。分散開催を逆に生かすということで、お台場エリア帯がモビリティのテーマパークと化して、無料エリアも設置し、気軽に立ち寄って、楽しんでいただける工夫もしています。そのようなことで、新たなモーターショーの形が提案でき盛り上げが図られ、会長からございましたように、100万人が達成できればいいなと思ひています。

四輪に加えまして、二輪も様々なモデルの展示や試乗イベント、あるいは近未来のモビリティとしての二輪のEVなども出展される予定でございますので、併せてお楽しみいただきたいと思います。

## 「第46回 東京モーターショー2019」の開催に向けて



豊田 章男 会長

今回まずは、クルマに限らなくとも「みんながワクワクするような未来の生活」を見せられるようにしたいと思ひました。私がオリンピック・パラリンピック等経済界協議会の会長をさせていただいているご縁もあり、様々な産業の方々にお声がけをさせていただきました。それにより実現した新しい企画が、FUTURE EXPOというブースです。未来の生活を体感でき、お子様も含めて、単純に楽しめるコンテンツが詰まったブースになると考えております。他にも、今回メイン会場が2カ所に分かれてしまいますが、その2カ所を結ぶ遊歩道には、自工会メーカーのものに限らず、様々な小型モビリティを体感いただけるようなエリアも設置してまいります。「体感できる」、「お子様も楽しめる」ということを申し上げましたが、これらの言葉は、今回のモーターショーを企画する上で、大切なキーワードでした。とにかく一人でも多くのお客様にご来場いただきたいというのが、私の心からの願ひです。

あえて目標を申し上げれば、100万人です。100万人という数字に緻密な理屈はございませんが、箱根駅伝、甲子園、高知のよさこい、徳島の阿波踊り、こうした誰もが知るイベントは、いずれも100万人規模となっております。誰もが知るという、一つの目安が「100万人」なのかなとも思ひます。自動車をはじめ、日本の様々な産業が集まり、楽しい未来をつくろうというのが今回のお祭りです。

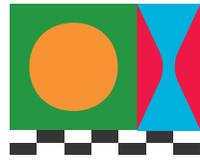
ですから、誰もが知るお祭りになって欲しいと我々は願ひております。以前、来場者200万人超えという時もありました。その時は市場も700万台を超えておりましたが、台数の減少とともに来場者も減ってまいりました。

かつてのモーターショーは、少し極端な言い方をすれば、「新しいクルマを置いておくので、どうぞ見に来てください」、そんな感じだったかもしれません。クルマを買いたいと思ひてくださるお客様がたくさんいらっしゃった時は、それでも多くの方にご来場いただけておりました。残念ながら今は違います。昔ほど、クルマを買いたいと思ひてくださるお客様はいらっしゃいません。今までのやり方を踏襲していたのでは、来場者が減っていくのは当たり前だと思います。どうしたら「行ってみたい」と思えるものになるのか。今まで来ていただけていなかったお客様に、どうしたら来ていただけるのか。我々も凝り固まった頭ではなく、今回は柔軟に考えられる各社の若手に集まってもらい、いろいろと考えてもらうようにしてきました。

お客様に来ていただく、話題にさせていただく、共有したくなる、そのためには、ただ見てもらうだけでなく、なるべく体験してもらおうということになりました。また、未来をテーマにするならば、未来の主役であるお子様たちに来てもらいたい。そうして、今までにはなかったお子様やご家族連れに本当に楽しんでいただける企画を考えるようになりました。キッズニアとのコラボや、高校生以下無料などは、そうして実現に至った企画だと思ひます。

過ごしやすい秋の良い季節に、少しでも多くの方々に、このモビリティのテーマパークに来ていただき、未来を楽しんでいただければと思ひております。そして、100万人の方々に、「未来っていいな」と思ひていただければ、それは、日本をもっと笑顔にしていけるチカラになると信じております。

2019年9月26日 (会長会見から抜粋)



## OPEN FUTURE

TOKYO MOTOR SHOW 2019

第46回 東京モーターショー 2019 10月24日(木) - 11月4日(月・祝) 東京ビッグサイト - お台場周辺エリア



## 無料エリアの見どころをご紹介します!

### DRIVE PARK

TFTビル横 駐車場 入場無料

最新の乗用車・二輪車試乗体験、日本自動車ジャーナリスト協会(AJAJ)会員等が運転する同乗試乗体験など、クルマ・バイクの走りを実際に乗って体験できる試乗エリアです。ピストン・西沢氏プロデュースの「動くクルマ図鑑ステージ」や、「ドリフト同乗体験、世界レベルの」ドローンレース」も開催します。



プロデューサー  
ピストン西沢

#### [Test Drive & Ride]

- 乗用車公道試乗体験：10/25(金)~11/3(日)
- AJAJ協力同乗試乗体験：10/28(月)~10/31(木)
- 最新二輪車試乗体験：10/28(月)~10/31(木)

試乗体験には、入場券が必要です。詳しくは公式webをご覧ください。



#### [Drone Race]

FAI Drone TOKYO 2019 (予定) 決勝大会：11/2(土)



TOKYO MOTOR SHOW X COUNTDOWN SHOWCASE

### FUTURE EXPO

MEGA WEB 入場無料



世界最高峰の e-Motorsports を 体感しよう!

PlayStation 4用ソフト ウエア「グランツーリスモSPORT」を使った、リアルとゲームが融合した走りを体験できます。レース大会も同時開催。

- 10/27：都道府県対抗U18全日本選手権
- 10/26~27：FIA グランツーリスモ チャンピオンシップ 2019シーズン ワールドツアー第5戦

「PlayStation」は株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標です。©2019 Sony Interactive Entertainment Inc. Developed by Polyphony Digital Inc.



様々な業界がつくる、近未来体験空間

自動車業界の枠を越えた様々な企業によるプロダクトや先進テクノロジーで、MEGA WEBが近未来空間に。「入国」「交通」「都市」「地方観光」「スポーツ」「未来のエネルギー」など、テーマに沿って、ちょっと先の「未来」が楽しめます。

「FUTURE EXPO」詳細はコチラ



### OPEN ROAD

シンボルプロムナード公園 入場無料

未来のモビリティに乗って、青海エリアと有明エリアを移動しよう! バラエティ豊かなモビリティが集まった東京モーターショー2019のシンボルロード

今年、東京ビッグサイト西・南展示棟がある、「有明エリア」に加え、新たに「青海エリア」まで会場を拡大。そのふたつのエリアをつなぐ約1.5kmの一本道がOPEN ROADです。電動キックボードや、次世代小型モビリティなど未来のモビリティに乗って、自由自在に行き来できます。OPEN ROADには、普段は見ることのできないレアなモビリティをはじめ、スーパーカーやカスタマイズカー、キャンピングカーなどが大集合します。ゲートめぐると、そこはモビリティのテーマパーク。キッチンカーで食べ歩きながら、観て、乗って、OPEN ROADを楽しんでみてください。



「FUTURE EXPO」開催概要 未来の日本に入国し、楽しく未来を体験！

①未来の日本に入国

トンネルを抜けると、そこは未来の日本。バーチャルキャラが入り口でお出迎えし、エリア内のご案内します。バーチャルキャラの一部は、お笑い芸人の皆さんが担当。エンタメ性の高い会話で、来場者を一気に未来空間に引き込みます。そして、未来のモビリティに乗車するキャストによるデモパフォーマンスもあり、楽しみながら未来空間に入っただけです。



「FUTURE EXPO」のお出迎え



バーチャルキャラクターが会場を案内

お笑い芸人が扮するバーチャルキャラクターが入国直後に皆様をお出迎え。リアルタイムでの会話をお楽しみいただきながら各エリアをご紹介します。



詳細はコチラ



9月26日  
モーターショー特別委員会  
長田 准委員長より  
FUTURE EXPOに関して紹介しました

TOKYO MOTOR SHOW X COUNTDOWN SHOWCASE

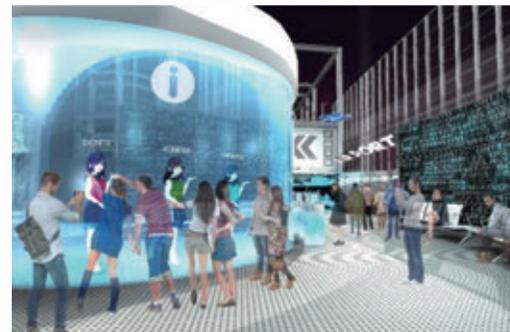
FUTURE EXPO



特別ムービー



詳細はコチラ



一般社団法人日本自動車工業会(会長:豊田 章男)は、「第46回東京モーターショー2019」においてMEGA WEBB会場「FUTURE EXPO」を開催します。オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の企業など、約60社の企業団体の最新技術が集結！  
来場者みなさまに楽しんでいただけるよう、MEGA WEBBの空間すべてを使った、90を超えるコンテンツで未来を体験いただけます！

「FUTURE EXPO」では、NTT Data、assoc. inc、NEC、富士通をはじめとするオリンピック・パラリンピック等経済界協議会の企業など、約60社の企業団体の最新技術が集結！

\*1 NEDO: 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

近未来の日本に入国体験！  
多様な業界のコラボで実現した  
近未来空間を無料で  
体感いただけます

- 入国**  
●バーチャルキャラによるお出迎え
- 移動体験**  
●空飛ぶクルマ  
●次世代モビリティのデモ走行
- 都市**  
●EV×生活の融合  
●未来の移動空間
- スポーツ**  
●未来のスポーツ観戦  
●e-Motorsports大会
- 地方観光**  
●無人店舗体験  
●観光案内 AI
- 未来のエネルギー**  
●最新の水素モビリティ  
●水素を活用した宇宙技術

「FUTURE EXPO」に入国すると、未来の移動、都市での生活、スポーツ観戦や地方観光など、生活に密着した未来を体感することができます。

### ③スポーツ観戦、地方観光

スポーツエリアでは、未来のスポーツの世界を体験できます！通信技術を活用したスポーツ観戦やロボットによるシューティングパフォーマンスなど、見どころもたくさん。また、観光をイメージしたエリアでは、顔認証決済店舗による地方物産品販売や、観光案内ロボットが登場し、これからの地方観光を体験することができます。

#### 未来のスポーツ観戦



超高臨場感通信技術 Kirari!(NTT)

ネットワークを介して、リアルタイムに競技空間を「丸ごと」配信し、再現する“未来のスポーツ観戦”は、これまでにない超高臨場感を提供します。



詳細はコチラ



ICTを活用したスポーツ体験(富士通)

世界初の3Dセンシング技術を用いた体操の採点支援システム、3Dセンシングによるゴルフのスイング診断、なわとびによる運動能力診断を体験いただけます。



詳細はコチラ

#### 未来の地方観光



顔認証決済店舗(NEC)

顔認証技術で利用者を特定し、会計ができる「顔認証決済店舗」で、お買い物を楽しめます。



詳細はコチラ



案内ロボット  
(JR東日本×ティファナ・ドットコム)

多言語に対応した最新のAIロボットが様々な国からやってくるお客様を案内します。



詳細はコチラ

### ②未来の移動体験、未来都市へ

入国したのち、さらに進むと、未来の都市と移動体験空間へ。最新のモビリティでの移動体験や、モビリティと住空間が融合した暮らしを体感いただけるコンテンツ等、体験型コンテンツを数多くご用意しています。

#### 未来のモビリティを体験！



空飛ぶクルマ試作(NEC)

NECが開発を進める「空飛ぶクルマ」。近年、地上と空にまたがる次世代の移動・輸送手段として注目を浴びている近未来の移動手段を間近にお楽しみいただけます。



詳細はコチラ



UNI-CUB β(Honda)/歩行領域 EV(TOYOTA)  
WIND/mobby デモ走行

FUTURE EXPOのキャストによる次世代パーソナルモビリティのデモ走行を実施。

#### あたらしい都市のカタチ



SPACE\_L (Panasonic)

完全自動運転車の普及が想定される2030年、移動時間・移動空間の過ごし方も大きく変わります。「Living Room」「Business」「Relax」「Entertainment」、シーンに応じて姿を変える未来の快適な車室内空間のコンセプトを提案します。



詳細はコチラ

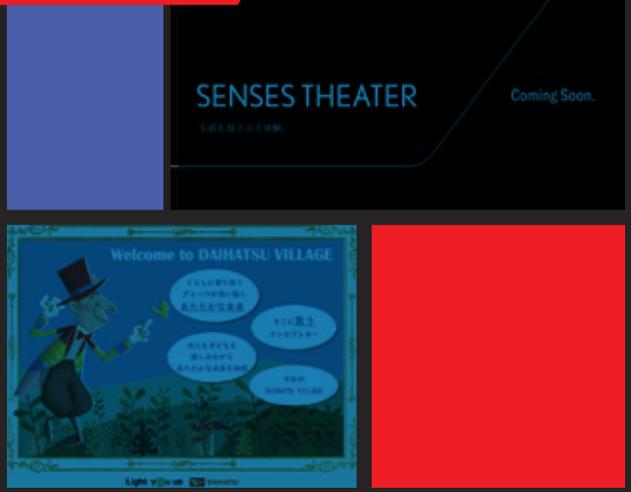
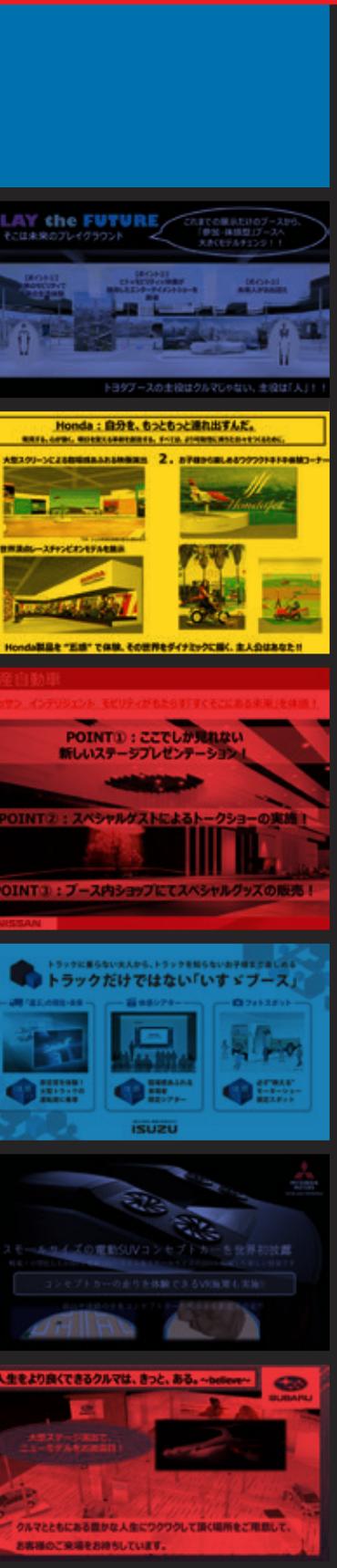


ニッサンエナジーシェア  
～電気自動車もたらす新しい暮らし～

家とクルマの間で電力を相互供給できるような、つながる社会を構築するシステム。太陽光パネルや「日産リーフ」から室内の電化製品へ電力が供給される流れを未来の家で体感いただけます。



詳細はコチラ



**MEGA WEB 青海展示棟  
東京ビッグサイト 西 - 南展示棟**

輸入車を含む乗用車や二輪車、国内外の部品メーカーなどによる、様々なモビリティや最新技術を紹介する展示ブースが並びます。



会場ガイドマップ

**青海**

ISUZU SUBARU

DAIHATSU TOYOTA

FUSO HINO UD TRUCKS

**西**

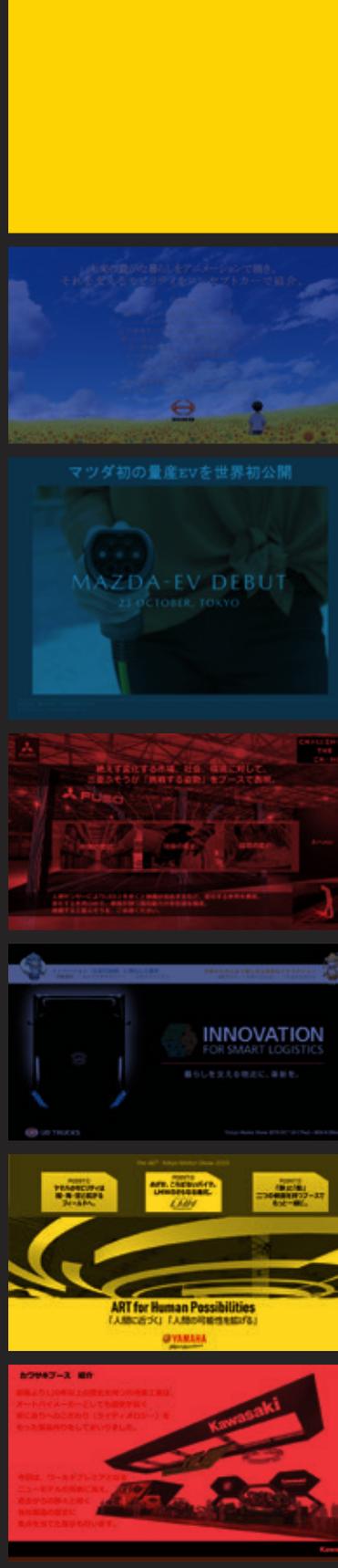
SUZUKI NISSAN HONDA

MITSUBISHI MOTORS Kawasaki YAMAHA

**南**

mazda LEXUS

※ご入場には入場券が必要です。詳しくは公式webをご覧ください。  
※自動車工業会会員14社の出展紹介は各社のニュースリリースを抜粋したものです。



東京モーターショー2019

④ 未来の生活を支える水素エネルギーや宇宙技術

未来のエネルギーエリアでは、水素エネルギーや宇宙技術などについて紹介。最新の宇宙技術や燃料電池車の仕組みなど、これからの国を支える未来のエネルギー社会を体感いただけます。

その他、お客様が未来を楽しむFUNスポットや、フォトスポットも



LED ダンスパフォーマンス(LDH)

EXILE HIROがプロデュースする実力派ダンサーSAMURIZE from EXILE TRIBEによる、LEDの光の演出とダンスによるパフォーマンスを実施。



詳細はコチラ



G-SATELLITE 宇宙へ

東京2020大会の機運醸成に向け、「機動戦士ガンダム」のプラモデル"ガンブラ"を搭載した小型衛星G-SATELLITEを開発。トークショーや、大型フィギュアとの記念撮影をお楽しみ下さい。



詳細はコチラ



顔も車も!「ミラクルペイント」(POOL)

肌にも環境にもやさしい、こすればいつでもはがせる最新のボディペイント画材「ミラクルペイント」で、顔や最新の車にペイントしてみよう! 無料で体験&お土産付!



詳細はコチラ

**OPEN ROAD 軽トラ市 in 東京モーターショー**

10年前に岩手県の雫石で産声を上げ、現在では商店街や地域の活性化に取り組むイベントとして全国的な賑わいを見ている軽トラ市が東京モーターショーに初めてお目見えします。

- 実施日時: 11月4日(月・休) 10時~14時(予定)
- 場所: シンボルプロムナード公園 石と光の広場
- 設置台数: 約50台
- 静岡県掛川市 / 静岡県磐田市 / 愛知県新城市 / 栃木県宇都宮市 / 宮崎県川南町 (以上過去軽トラ市全国大会開催市町)
- 神奈川県小田原市 / 埼玉県行田市 / 軽トラ市実行委員会にて出店募集中



# ISUZU

いすゞ自動車お客様相談センター  
フリーダイヤル ☎0120-119-113  
受付時間 月曜日～金曜日(除く所定の休日)  
9:00～12:00、13:00～17:00

いすゞ自動車株式会社は、第46回東京モーターショーに、5台の車両(内、参考出品4台)、パワートレインなどを出品します。

今回のモーターショーでは、“Create with you. これからも「運ぶ」を支えるために”をコンセプトワードとしました。変化を続ける時代の中にあっても、世界の「運ぶ」を支え続けていくために。いすゞは、お客様や社会とともに新たなソリューションを生み出す「協創活動」に取り組んでいます。ブースでは、いすゞの最新フラッグシップモデル「ギガ」をはじめ、「FL-IR」、「エルフEVウォークスルーバン」「エルガデュオ」などの実車やパネル展示等で、お客様と、社会とともに創りあげる新しい時代の「運ぶ」を提案します。

## ギガ

### GIGA

さらなる進化を遂げたフラッグシップモデル、大型トラック「ギガ」。最新の先進安全装置に加え、ドライバーへの疲労軽減装備を新たに拡充し、安全性能と疲労軽減の両輪で性能に磨きをかけました。

歩行者や自転車も検知するプリクラッシュブレーキ、右左折時の巻き込み事故抑制や車線変更を支援するブラインドスポットモニターや可変配光型LEDヘッドランプ等により安全運転に貢献します。

また、全車速で先行車に追従する全車速ミリ波車間クルーズや新ハイルーフキャブ等によりドライバーの疲労軽減に寄与します。

さらに、MIMAMORIも車両コンディション項目を拡充、安全装置の作動状況も新たにモニタリングし、お客様の安心稼働を支えます。



## ショーモデル FL-IR

### FL-IR

「安心・安全で生き生きとした長距離ドライバーの新しい働き方」をコンセプトに未来の物流ネットワークを創造し、ショーモデルとして表現しました。

魚類などに見られる超音波の会話や行動習性と、コネクテッドや隊列走行との類似性に着目し、エクステリアは「サム」をモチーフに効率的なロボットのイメージを付与したバイオデザインを取り入れ、風を切り裂く有機的な形状の前絞りキャブと、その周りを覆う硬質なエアロデバイスの対比をスタイルの特徴としています。

インテリアは手動・自動の運転モード変更でダッシュボードが入れ替わるレイヤーデザインを採用。シートはセンターに配置し、快適な操作性と居住性を兼ね備えます。

## エルガデュオ

### ERGA DUO

いすゞと日野が共同開発した国産初のハイブリッド連節バス。「エルガデュオ」は効率的な大量輸送を実現するとともに、ハイブリッドシステムの採用により環境負荷にも配慮しています。

また、路線バスでは世界初の「ドライバー異常時対応システム(EDSS)」を搭載し、ドライバーの異常時に乗客や乗務員が非常ブレーキスイッチを押すことで減速し停止します。

更に、自動でバス停へ誘導する「プラットホーム正着制御」、先行車との車車間通信により自動で加減速を行う「協調型車間距離維持支援システム(CACC)」、車外の移動物を検知する「視覚支援システム」等、次世代都市交通システム(ART)を想定した技術を新たに開発・搭載しました。



## エルフEVウォークスルーバン

### ELF EV Walk-through Van



次世代の小型配送車「エルフEVウォークスルーバン」。ゼロエミッションや低騒音など環境にやさしいことはもちろん、EVだからこそ実現できたウォークスルー構造を組みあわせ、ドライバーの労働環境や集配作業の効率化にも配慮しています。運転席には回転シートを搭載することで、ドライバーの車内移動を助けます。

また安全面でも、従来のミラーより広い範囲を映すことができる電子ミラーシステム(CMS<sup>\*1</sup>)や、車両の全周囲を確認できる3Dサラウンドマルチビュー<sup>\*2</sup>を搭載し、ドライバーと周囲への安全性をサポートします。

※1 カメラモニタリングシステム ※2 全方位モニター

## 4JZ1-TCH/TCSディーゼルエンジン

最新の排出ガス規制への対応と燃費の両立を実現した最先端ディーゼル4JZ1エンジン。エルフの主力ディーゼルエンジン4JJ1型にさらなる磨きをかけ、商用車用に特化した新エンジン4JZ1型を開発しました。

エンジン本体の大幅改良と後処理装置(DPD)をエンジンに近接搭載する革新的パッケージレイアウトを採用し、平成28年排出ガス規制適合および燃費性能向上に加え高出力エンジンの設定等、市場ニーズへの対応をしています。



## 稼働サポート PREISM(プレイズム)

PREISM<sup>\*3</sup>は、故障を未然に防ぎお客様の使命である「運ぶ」を支えるためのサポートプログラムです。

車両に搭載された情報通信端末から運行中の車両データを常時モニタリングすることで、車両コンディションを遠隔で把握。さらに、車両情報を活用した高度純正整備により、大事に至る前に予防整備を実施し故障を抑制。万が一の故障時にも、車両データの事前把握で入庫前に整備内容を予測し、整備の短縮化に寄与します。あらゆるつながりで故障の芽を摘み、車両の「安定稼働」「高稼働」を支えるPREISMを、ステージなどでご紹介します。※3 PREISM…PRE=不調の発生する前/ISM=いすゞの姿勢・考え方

# Kawasaki

川崎重工業(株)  
 モーターサイクル&エンジンカンパニー  
 企画本部 渉外部  
 ☎03-3435-2523  
<https://www.kawasaki-cp.khi.co.jp/inquiry>

創業より120年以上の歴史を持つ川崎重工業は、オートバイメーカーとしても歴史が長く常に走りへのこだわり(ライディオロジー)をもった製品作りをしてまいりました。今回は、ワールドプレミアとなるニューモデルの発表に加え、過去からの脈々と続く当社製品の歴史に焦点を当てた展示も行います。

また鈴鹿8耐での優勝マシンをトロフィーと共に展示し、カワサキのレース活動を応援していただいているファンに喜ばれる展示を目指しております。

## 650-W1(1966)

### 「大型バイクのカワサキ」の起源

1960年代、125-B8の対米輸出で端緒を開いたカワサキは、アメリカ市場の大型車志向へ対応するため、カワサキ500メグロK2の排気量を496cm<sup>3</sup>から624cm<sup>3</sup>にスケールアップした試作車X650を、1965年の第12回東京モーターショーで公開し、翌年650-W1として販売を開始しました。

真紅のキャンディカラーと上質なクロームメッキの斬新なタンクデザイン。当時国内最大排気量のエンジンが生み出す最高速は185km/h、0-400mは13.8秒。アメリカ市場を見据えて作り出されたこの高性能のバイクによって、カワサキはビッグバイクメーカーとして世界に名乗りを挙げたのです。



SPEC  
 ●Air-cooled ●4-stroke OHV Vertical Twin ●Single carburetor ●624cm<sup>3</sup> ●4-speed ●181kg

## Ninja H2 CARBON(2019)

### 川崎重工業グループの技術を結集して作り上げた、究極のハイパフォーマンススポーツモデル

ガスタービンや航空機用エンジンの技術を応用した、完全自社設計の「998cm<sup>3</sup>水冷4ストローク4気筒スーパーチャージドエンジン」がさらに熟成されて再登場。吸気チャンバー内のディフューザー追加など、さらにパフォーマンスを高めたエンジンは231ps\*にパワーアップし、圧倒的な加速力を生み出します。

また、新しいTFT液晶メーターやスマートフォン接続機能、小傷を自己修復するハイリピーデュラブルペイントの採用など、高品質も極めたハイパフォーマンススポーツモデルです。

※一定の条件下で測定した数値です。使用環境により異なる場合があります。全ての個体が上記の数値を満たすという保証をするものではありません。



SPEC  
 ●Liquid-cooled ●4-stroke In-Line Four, Supercharged ●DOHC 16-valve ●Fuel Injection ●998cm<sup>3</sup> ●6-speed ●238kg

## KLX230(2020)

### 気軽にオフロード走行も楽しめるデュアルパーパスモデル

KLX230は、新設計の空冷4ストローク232cm<sup>3</sup>単気筒エンジンと、新設計のペリメーターフレームを、モトクロスレース車である「KX」を想起させるデザインでスリムにまとめた新しいデュアルパーパスモデルです。

中低速回転域でのパワー向上、車体の軽量化、そしてデュアルパーパスモデル用に新たに開発したABSを搭載。オンロードでもオフロードでも安心して走行できるKLX230は、ビギナーからベテランまで幅広いライダーに楽しんでいただけます。



SPEC  
 ●Air-cooled ●4-stroke Single ●SOHC 2-valve ●Fuel Injection ●232cm<sup>3</sup> ●6-speed ●134kg



スズキ(株)お客様相談室  
 お電話の場合 フリーダイヤル ☎0120-402-253  
 オープン時間 9:00~12:00、13:00~17:00  
<http://www.suzuki.co.jp/>

スズキは、「消費者の立場になって価値ある製品を作ろう」を社是の第一に掲げ、四輪車や二輪車、電動車いす、船外機で、お客様に喜ばれる真の価値ある製品づくりに取り組んできました。

今回の第46回東京モーターショー2019では、2020年に100周年を迎えるスズキが、次の100年に向けて、軽自動車に代表される「小さなクルマ作りで培った技術」によって、多くの人に「自由な移動」と「実用だけではない楽しみやワクワク感」を提供することで社会に貢献し、「大きな未来」を切り拓いていくことを表現したいと考えています。

いつでも、誰でも、どこへでも。楽しさ、ワクワクをシェアリング  
**パーソナルコンパクトPHEV  
 WAKUスポ (ワクスポ)**



- 世代を超えて、日常使いでも趣味使いでも、一台で楽しさ、ワクワクを家族内でシェアリングできるパーソナルコンパクトPHEVです。
- Aセグメントのコンパクトポディーに、車体形状、フロントマスク、インテリア表示コンテンツを切り替えるワクワクスイッチを搭載。一人ひとりの楽しさ、ワクワクに応じてクルマが変化し、みんなで共有できる未来の「小さなクルマ」を提案します。



誰もが自由に移動時間と、  
 ほどよい空間を有効活用できる  
**モバイルルーム自動運転車  
 HANARE (ハナレ)**

- AI、ロボットによる超効率化社会の中でも、「人のつながり」や「人のこだわり」など、人間らしい欲求を大切に、クルマを所有する新たな喜びを提案する自動運転車です。
- 家の「離れ」のようなほどよい大きさの室内空間が移動することで、運転以外の楽しさ、ワクワクを提案します。ライフスタイルが更に多様化する未来において、様々な使い方や利用シーンに対応し、一人ひとりのワクワクにスイッチします。

もっと遊べる、もっとワクワクできる  
 軽クロスオーバーワゴン

**HUSTLER CONCEPT  
 (ハスラー コンセプト)**



- 機能を追求したスタイルと、新境地を開拓してきた個性的なキャラクターを融合させた、もっと遊べる「ハスラー」のコンセプトモデルです。
- 「このクルマがあればもっと遊べる」、「このクルマと一緒に毎日をもっと楽しくなる」日常から遊びのシーンまで毎日をもっとワクワクするクルマを提案します。



新開発の油冷エンジンを搭載した  
 フルカウルスポーツバイク  
**ジクサー SF 250**

- スポーティーなデザインと力強い加速性能、優れた燃費性能を兼ね備えたロードスポーツバイクです。
- 第44回東京モーターショー2015に参考出品したコンセプトモデル「Feel Free Go! (フィールフリーゴー!）」に採用した新開発の油冷エンジンを搭載しています。

新開発の油冷エンジンを搭載した  
 ネイキッドスポーツバイク  
**ジクサー 250**



- グラマラスな造形を取り入れたデザインと力強い加速性能、優れた燃費性能を兼ね備えたロードスポーツバイクです。
- 第44回東京モーターショー2015に参考出品したコンセプトモデル「Feel Free Go! (フィールフリーゴー!）」に採用した新開発の油冷エンジンを搭載しています。



**SUBARU**

SUBARUお客様センター  
☎0120-052215

受付時間 平日 9:00~17:00  
土日祝 9:00~12:00、13:00~17:00

～新型レヴォーグ プロトタイプを世界初公開～

SUBARUは、第46回東京モーターショー2019に、「人生をより良くなるクルマは、きっと、ある。～believe.～」をコンセプトに出展します。クルマを通じてお客様の人生を豊かにするというSUBARUブランドの信念を、世界初公開となる新型レヴォーグプロトタイプをはじめとする出展車両やブース全体を通じて表現します。

専用webサイト (<https://www.subaru.jp/tms/>) を開設し、出展車両に関する情報を配信します。

**新型レヴォーグ プロトタイプ**



2014年に誕生したレヴォーグの第2世代モデルを世界初公開します。

新型レヴォーグ プロトタイプは、SUBARUの持てる最先端の技術を結集し、自動運転化が進むモビリティ社会の中において、「誰もが自分の意思で、運転をどこまでも愉しめる未来」の実現を目指した1台です。

東京モーターショー公開に先立ち、専用webサイトをオープンしています。

専用web サイトURL: <https://www.subaru.jp/levorg/prototype/>

**WRX STI EJ20 Final Edition プロトタイプ**

SUBARUは、1989年から長年にわたって主力エンジンであったEJ20型水平対向エンジンの生産を、今年度内に終了する予定です。これに伴い当該エンジンを搭載する日本市場向け現行型WRX STIは、2019年末で受注を終了します。

その集大成となる特別仕様車「EJ20 Final Edition」のプロトタイプを、東京モーターショーで公開します。

同エンジンは、初代レガシィを皮切りに幅広い車種に採用され、世界ラリー選手権 (WRC) やニュルブルクリンク24時間レースをはじめとするモータースポーツにおける活躍にも大きく貢献してきたパワーユニットです。「EJ20 Final Edition」では、バランスドエンジンやゴールド塗装のBBS製19インチ鍛造アルミホイール等、このエンジンのフィナーレを飾るにふさわしい特別な装備を採用しました。

東京モーターショー公開に先立ち専用webサイトをオープンしています。

専用web サイトURL: [https://www.subaru.jp/wrx/sti\\_ej20finaledition/](https://www.subaru.jp/wrx/sti_ej20finaledition/)

なお、特別仕様車「EJ20 Final Edition」は555台限定の抽選販売を予定しています。販売等に関する詳細は10月23日に公表予定です。



**インプレッサSPORT 2.0i-S EyeSight (10月10日発表)**

今月、大幅改良モデルを発表したインプレッサSPORTは、フロントバンパーやヘッドランプをはじめとするエクステリアの刷新に加え、サスペンションの改良などにより走りの質感も向上。さらにアイサイト・ツーリングアシストを全グレードに標準装備とすることで、総合安全性能を一層高めました。



**SUBARU XV Advance (e-BOXER 搭載車、10月10日発表)**

SUBARU XVは、都会的で洗練されたデザインとSUVとしての走破性、そして高い安全性能を兼ね備えたクロスオーバーSUVです。

改良したSUBARU XVは、軽快な加速感や走破性を高めることで、新感覚の走りの愉しさを実現するe-BOXER搭載モデルのラインアップを拡大しました。アイサイト・ツーリングアシストの全車標準装備化による総合安全性能の向上に加え、X-MODEを改良し、路面状況に合わせて2つのモード選択を可能にしたことで、悪路走破性も強化。全方位で進化を遂げています。



**SUBARU VIZIV ADRENALINE CONCEPT**

SUBARU VIZIV ADRENALINE CONCEPTは、より「大胆」なデザイン表現を通じ、SUBARUブランドの持つ世界観を広げ、特徴をより際立たせることを目指す「BOLDER」の考え方のもとでデザインされた初めてのコンセプトカーです。

アクティビティをサポートするユーティリティと、道を選ばず、速く、意のままに駆け抜ける愉しさを併せ持ち、アクティブマインドを持つ人の「大自然の中を想いのままに走り回りたい」という気持ちを駆り立てる、新しいスポーツヴィークルとして、2019年ジュネーブ国際モーターショーで初公開しました。





ダイハツ工業株式会社 お客様コールセンター  
☎0800-500-0182

ダイハツ工業(株)は、第46回東京モーターショーに、ワールドプレミアとなる4台のコンセプトカーを出展する。ダイハツブースでは「つどい～みんなの暮らしをあたたかく～」をテーマに、人々や日本の各地域がクルマをきっかけに、元気になっていく「あたたかな未来の暮らし」を、ブース全体で表現する。また、すべての来場者が楽しめるモーターショーとなるよう、ブース内外での子供向けコンテンツも予定。ブース内には、キッズコーナーを設け、塗り絵体験などを実施。ブース外では、モーターショーで初めてとなる子供向け職業体験施設「キッズニア」とのコラボレーションエリアに、クルマを組み立てる仕事を体験できるコンテンツを出展する。

## Icolco(イコイコ)&Nipote(ニポテ)



“パブリックトランスポーター”

誰もが自らの意思で移動することをサポートし、ファースト/ラストワンマイルでの活用を目指した自動運転タイプのパブリックトランスポーター

- クルマ椅子や大きな荷物を持った旅行者など、みんなの乗り降りを考え、格納式のスロープを搭載
- 自宅や目的地の前など細い道でも移動可能な車両サイズで、ファースト/ラストワンマイルでの活用を目指す
- 付属のお世話ロボット「ニポテ」に話しかけることで、移動に関わる生活をアシスト



## TsumuTsumu(ツムツム)

“多用途に対応する次世代軽トラック”  
抜群の乗降性を持つ  
ビッグキャビンと、広い荷台を両立  
用途に合わせて荷台を換装する  
ことで、多くの「コト」に対応

- 荷台の長さを従来同等としながら、キャビン内を広く使える新しいレイアウト案を実現
- 新発想のドア開口により、抜群の乗降性を実現
- 従来の軽トラックの使い方にとどまらず、農業用ドローン基地や、個室空間など軽トラックの使い方の幅が一層広がる換装可能な荷台を設定

## WaiWai(ワイワイ)



“心地よい広さのジャストサイズミニバン”  
みんなで楽しく出かけたいくなる  
開放感あふれる室内空間

- 3列6人乗りの小型ミニバン
- 運転しやすいコンパクトな車両サイズながら、室内は開放感のあるサンルーフ仕様
- 従来のミニバンとは一線を画す、モダンフレンドリーなデザイン



## WakuWaku(ワクワク)



“遊びの世界を広げる軽クロスオーバー”  
好きな荷物を積んで、  
どこまでも行きたくなる、  
一番身近なサイズのK-SUV

- 使い倒せる荷室空間とルーフラゲージを装備
- 頼れる骨太な印象の内外装デザイン



# TOYOTA

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター  
☎0800-700-7700

TOYOTAは、第46回東京モーターショー2019において、未来を体感できる「モビリティのテーマパーク」を出展します。ブーステーマは「PLAY THE FUTURE」。今年のTOYOTAブースはエンターテインメント要素満載のテーマパークに生まれ変わります。トヨタが描く、人が主役の「未来のモビリティ社会」。e-Paletteをはじめ、様々な未来のモビリティが登場します。これからどんな未来が待っているのか、見て、触れて、楽しんでいただきたいという思いとともに、皆さまのご来場を、未来人そしてスタッフ一同、お待ちしております。

## MIRAI Concept

東京モーターショー FUTURE EXPOにて「MIRAI Concept」を初公開  
燃料電池自動車の次のステージに向けて、2020年末に発売予定



TOYOTAは、東京モーターショー2019のMEGA WEB会場で開催されるFUTURE EXPOにて、「MIRAI Concept」を初公開します。

「MIRAI」は、将来の有望なエネルギーである水素を、空気中の酸素と化学反応させて発電した電気で走るクルマで、TOYOTAは、2014年12月に発売して以来、水素社会の扉を開くとともに、世界中で約1万台を販売し、燃料電池自動車の普及に取り組んできました。

「MIRAI Concept」は、2020年末の発売に向けた次期「MIRAI」の開発最終段階のモデルとなります。



## LQ

「新しい時代の愛車」を具現化した「LQ」を公表

人工知能や自動運転など、人に寄り添う新しいテクノロジーにより「新しい時代の愛車」を具現化したコンセプトカー「LQ」を公表しました。

同車は、2017年1月の2017International CESに出展した「TOYOTA Concept-愛」で表現した未来の愛車体験コンセプトを忠実に実現しており、米国で人工知能や自動運転・ロボティクスなどの研究開発を行うToyota Research Instituteと共同開発したAIエージェントや自動運転機能を搭載しています。

「クルマと人」「クルマと社会」の新しい関係を提案するコンセプトカーとして、東京モーターショー2019のMEGA WEB会場で開催される「FUTURE EXPO」に出展します。



## 超小型 EV

2020年冬頃発売予定の「超小型 EV」を出展

「FUTURE EXPO」に、「超小型 EV」を出展します。なお、2020年の冬頃の発売を予定しています。

超小型 EVは、免許を取りたての方や、高齢の方々などが、買い物など日常の近距離移動をされることを想定して開発しました。小回りが利き、一充電で約100kmの走行が可能という特徴があります。また、法人の方が、お客様のところへ毎日巡回訪問するような、近距離移動の用途で、環境に良い業務用車として使っていただくことも想定しています。



## 歩行領域 EV

OPEN ROADでは「歩行領域 EV」

※「TOYOTA i-ROAD」については、有明エリアと青海エリアを結ぶシンボルロード「OPEN ROAD」で試乗が可能です。



歩行領域 EV 立ち乗りタイプ

- 空港、工場など大規模施設での巡回、警備。手荷物を持った移動



歩行領域 EV 座り乗りタイプ

- 荷物が多い時の移動
- 歩行に支障がある方の移動



歩行領域 EV 車いす連結タイプ

- 大規模施設、観光地での手動車いすの方へのレンタル



レクサスインフォメーションデスク  
☎0800-500-5577  
受付時間 9:00~18:00(365日年中無休)

LEXUSは、本年1月、北米国際自動車ショー（デトロイトモーターショー）で世界初公開した、コンバーチブルクーペのコンセプトカー「LC Convertible concept」を展示します。



## LC Convertible concept

LEXUS、東京モーターショーでコンセプトカー「LC Convertible concept」を出展

「LC Convertible concept」は、LEXUSが提唱するラグジュアリーライフスタイルの新たな提案として開発されたコンバーチブルモデルのコンセプトカーです。フラッグシップクーペLCとともにLEXUSラインアップの頂点として、飽くなき美の追求と感性を刺激する唯一無二の体験の提供を目指しています。LCのデザインと走行性能が調和した独創的なスタイリングや「より鋭く、より優雅に」をコンセプトとする優れた走りを継承するとともに、コンバーチブルモデルならではの自然との一体感や運転の気持ちよさをもたらします。



日産自動車株式会社  
グローバルコミュニケーション本部  
☎045-523-5521 (企業) / 5553 (商品) / 5520 (IR)

日産自動車株式会社は、第46回東京モーターショー2019の出展概要を発表しました。

今回の東京モーターショーでは、「ニッサン インテリジェントモビリティ」の将来を示すコンセプトカー「ニッサン IMk」を世界初公開します。また、電動駆動車の市場を牽引する「日産リーフ e+」や「セレナ e-POWER」、世界初の先進運転支援システム「プロパイロット 2.0」を搭載した新型「スカイライン」など、計14モデルを展示します。

## ニッサン IMk

「ニッサン インテリジェント モビリティ」の進化を体現するEVシティコミューター



「ニッサン IMk」は都市部の洗練された景観から日本らしい伝統的な街並みにも自然に溶け込む上質なデザインを取り入れた新しい時代の小型EVです。新しいEVプラットフォームに低重心のパッケージを採用し、軽自動車規格のコンパクトなボディサイズでありながら、EVならではの力強くスムーズな走りと驚きの静粛性を実現しています。

## セレナ e-POWER

マイナーチェンジでフロントデザインを一新し、安全機能を追加

「セレナ」は、日産のラインアップでいち早く「プロパイロット」を搭載し、2018年3月にはそのパワフルな加速や静粛性が好評の「e-POWER」を追加するなど、大切な家族と一緒に乗るクルマだからこそ、より安心して快適にお乗りいただけるよう、日産の最先端の技術を搭載しています。



## 新型 スカイライン

先進運転支援技術「プロパイロット 2.0」を搭載した、プレミアムスポーツセダン



「スカイライン」は、常にその時代の最先端の技術を採用し、進化を続けてきた日産を代表するモデルです。新型「スカイライン」には、高速道路<sup>\*1</sup>の複数車線をナビゲーションシステムと連動して設定したルートを行き、ドライバーが常に前方に注意して道路・交通・自車両の状況に応じ直ちにハンドルを確実に操作できる状態にある限りにおいて、同一車線内でハンズオフが可能となる<sup>\*2</sup>世界初の先進運転支援システム「プロパイロット 2.0」を搭載しています。

\*1 高速自動車国道法の定める高速自動車国道、および道路法の定める自動車専用道路

\*2 対面通行路、トンネル内、カーブ路、料金所・合流・車線数減少の地点およびその手前などでは、ハンズオフできません。ハンズオフができない区間に入るときには事前にドライバーに報知するので、ドライバーはハンドル操作をする必要があります。

## 日産リーフ e+

さらに快適なロングドライブと蓄電池としての新しい価値を提供

「日産リーフ」は2010年に初代モデルを発売して以来、世界で累計43万台以上の販売を達成しています。最新の「日産リーフ e+」は、航続距離を458km (WLTCモード) まで向上し、優れたエネルギー効率とさらなる高出力、高トルクを実現する新開発e-パワートレインを採用することで、よりワクワクするドライビングを提供します。

また、「日産リーフ e+」は大容量バッテリーに貯めた電気を、専用機器を介して、様々な電気製品の電源としての活用ができます。停電時の非常用電源としてだけでなく、太陽光発電の電力固定価格買取制度の満了 (After FIT) を迎えた方々のエネルギー自家消費にも対応できる、蓄電池としての価値を提供しています。



## NISSAN GT-R

走行性能をさらに向上させ、50年を超えて深化を続けるスーパースポーツカー

「NISSAN GT-R」は究極のドライビングプレジャーを追求し、圧倒的な性能を誇るスーパースポーツカーです。今回は2020年モデルの中から、GT-Rの50周年を記念する特別仕様車「NISSAN GT-R 50<sup>th</sup> Anniversary」と「NISSAN GT-R NISMO」の2台を日産ブースに展示します。



●「NISSAN GT-R 50<sup>th</sup> Anniversary」  
-GT-Rの生誕50周年を記念し、往年のニッサンワークスカラーをイメージした特別なツートーンカラーや専用ステッカーなど、エクステリアとインテリアの随所に専用アイテムを装備した限定モデルです。

## オリジナルグッズの販売

日産ブース内に物販コーナーを設置し、「NISSAN GT-R」と「フェアレディZ」の50周年を記念した東京モーターショー限定グッズを販売します。その他にもニッサンブランドのグッズやミニカー等も販売します。



日野自動車株式会社 渉外広報部 広報室  
 〒191-8660 東京都日野市日野台3丁目1番地1  
 ☎042-586-5494 FAX 042-586-4382  
 http://www.hino.co.jp

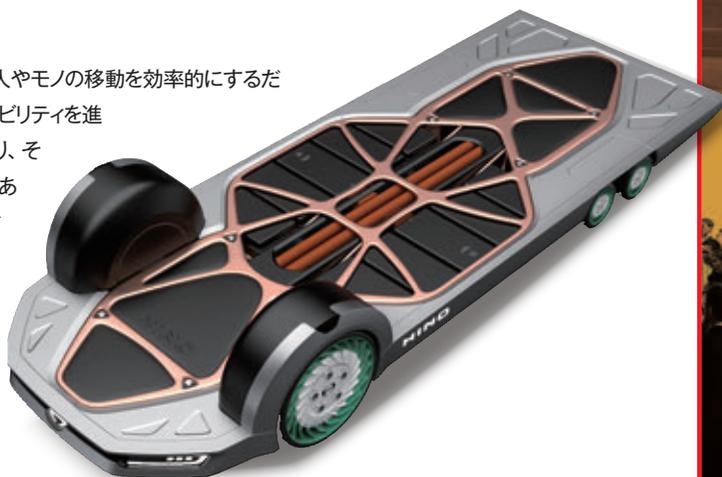
日野自動車株式会社は、第46回東京モーターショー2019に、変幻自在に暮らしを最適化するコンセプトモデルや、今年6月に発売した世界初の技術を搭載する「日野プロフィア ハイブリッド」などを出展します。日野自動車の出展テーマは「Transporting Every Happiness」。一人ひとりの幸せをこの星の隅々まで運び続けたいという想いが込められており、日野が思い描く豊かで持続可能な未来をコンセプトモデルやアニメーションで表現します。また、ブースでは未来につながる先進技術を紹介するほか、ダカール・ラリー2019参戦車「日野レンジャー」などを展示します。

変幻自在に暮らしを最適化するモビリティコンセプト

FlatFormer



FlatFormerはこれまでのモビリティの概念を変えます。人やモノの移動を効率的にするだけでなく、サービスを通じて人々に価値を提供する場へとモビリティを進化させます。暮らしを豊かにするサービスは多種多様であり、その提供の場となるモビリティもそれに対応し「変幻自在」であることが必要です。活用可能な空間を最大化したモビリティプラットフォームと、それを最適に活用するサービスプラットフォームがその変幻自在を実現します。このFlatFormerによってサービス自体が移動を手に入れ、都市をダイナミックに活性化させ、暮らしや街に新陳代謝を起こすことで人々が繋がり合い、一人ひとりのHappinessを叶える豊かで持続可能な社会を実現します。



SPEC  
 ●寸法(全長x全幅x全高mm):4,700x1,700x335 ●駆動方式:6×6 ●バッテリー形式:リチウムイオン ●バッテリー容量(kWh):50  
 ●モーター出力(kW):170

日野プロフィア ハイブリッド (市販車)



GPSや車載センサー、3D地図情報を元に、100キロ先までの勾配を先読み。AIが走行負荷を予測し、最適なハイブリッド制御を行う世界初の技術を搭載しています。これにより、消費電力の最小化と燃費の最大化を両立し、環境負荷の低減に貢献します。

SPEC  
 ●エンジン型式:A09C ●排気量(L):8.866 ●トランスミッション形式、変速段数:12速AMT ●燃料供給装置の形式:電子制御式(コモンレール)  
 ●燃料消費率(km/l):4.75 ●車両総重量(kg):24,912 ●使用燃料:軽油 ●寸法(全長x全幅x全高mm):11,990x2,490x3,772  
 ●駆動方式:後輪駆動(8×4) ●最大積載量(kg):12,800 ●乗車定員(人):2

路肩退避型ドライバー異常時対応システム シミュレーター (技術展示)

万が一のドライバーの異常を車両が検知し、車両を停止させるドライバー異常時対応システム(EDSS:Emergency Driving Stop System)。異常検知後、車両周囲の安全を確認し路肩へ退避するという研究中の自動運転技術を、バスのドライバーとして体感いただけます。交通事故死傷者ゼロに向けて、日野が研究開発を進める先進安全技術の一端をご覧ください。



ダカール・ラリー レース参戦車 (参考出品)

2019年1月に行われた大会で実際に走行した「ダカール・ラリー2019参戦車」を展示します。日野は1991年に日本のトラックメーカーとして初めてダカール・ラリーに挑戦。2019年大会ではクラス10連覇を達成しました。会場では参戦車への搭乗体験や、写真撮影もできます。中型トラックの日野レンジャーをベースに開発された車両総重量7トン超の迫力ある参戦車をぜひ体感してください。



SPEC  
 ●エンジン型式:A09C-TI ●排気量(L):8.866 ●トランスミッション形式、変速段数:MT 前進6速・後退1速 ●燃料供給装置の形式:電子制御式(コモンレール)  
 ●車両総重量(kg):7,300 ●使用燃料:軽油 ●寸法(全長x全幅x全高mm):6,290x2,500x3,150 ●駆動方式:全輪駆動(4×4) ●乗車定員(人):2

日野とお客様・社会をつなぐコネクティッドサービス HINO CONNECT

2017年以降に発売した新型トラック・バス\*にICTサービス用端末を標準搭載し、安心・安全な稼働や省燃費運転などをサポートするHINO CONNECT。会場では実際の車両の稼働状況がモニターでリアルタイムに確認でき、「つながる」トラック・バスを実感していただけます。

※日野プロフィア、日野レンジャー、日野デュトロ、日野セレガ

**HONDA**

Honda お客様相談センター  
☎0120-112010(いいふれあいを)  
受付時間 9:00~12:00、13:00~17:00

Hondaは、「第46回東京モーターショー2019」に、市販予定車を含む二輪車・四輪車・パワープロダクツやエネルギー関連技術のコンセプトモデルなどを出展します。

ブーステーマは「自分を、もっともっと連れ出すんだ。」今回の出展では、「自分を、もっともっと連れ出すんだ。」をメインコンセプトに、Honda製品を通して感じる「生活の可能性が広がる喜び」を多彩な企画展示で紹介し、訪れるお客様に「Hondaと創る、一歩先の暮らし」を体感いただけるブースを目指しています。

## 二輪車はスーパーカブベースの「CT125」、 四輪車は新型「FIT」を世界初公開

二輪車では、ワールドプレミアとして、世界中で多くのお客様に愛されてきた「Super Cub（スーパーカブ）」シリーズをベースにしたコンセプトモデル「CT125」を初公開。また、ビジネス用電動スクーター「BENLY e:(ベンリィ イー)」、電動三輪スクーター「GYRO e:(ジャイロ イー)」を展示します。そのほか、ジャパンプレミアとして、「CRF1100L Africa Twin Dual Clutch Transmission(アフリカツイン デュアルクラッチ トランスミッション)」、「CRF1100L Africa Twin Adventure Sports ES Dual Clutch Transmission(アフリカツイン アドベンチャー スポーツ イーエス デュアルクラッチ トランスミッション)」、「ADV150」を公開します。

四輪車では、ワールドプレミアとなる新型「FIT(フィット)」のほか、ジャパンプレミアとして、2020年はじめに発売を予定している新型「ACCORD(アコード)」、そしてEV専用車の「Honda e(ホンダ イー)」を公開します。また、10月にマイナーモデルチェンジとして発売を予定している「FREED(フリード)」、Hondaのフラッグシップであるスーパースポーツモデル「NSX(エヌエスエックス)」、日本の軽四輪車新車販売において4年連続で第1位を獲得している\*1「N BOX(エヌボックス)」シリーズなど、市販車も多数展示します。

\*1 一般社団法人日本自動車販売協会連合会および全軽自協調べ



### CT125

オフロードの走破性に配慮したつくりと冒険心をくすぐるデザインで、スーパーカブシリーズの新たな価値を提案するコンセプトモデルです。かつての「CT」のコンセプトを受け継ぎ、スチール製フロントフェンダーやアップマフラー、幅広大型キャリア、ハイマウント吸気ダクト&サイドエアクリナーなどを装備しながらシンプルで他にないスタイリングを実現。普段使いの気軽さがありながら、自然の中でも楽しめる機能性を持ったトレッキングバイクです。



### 新型 FIT

**FIT**

フルモデルチェンジを控える新型FITを、東京モーターショーで世界初公開します。4代目となる新型FITは、独自のセンタータンクレイアウトによる広い室内空間と、多彩なシートアレンジを継承し、ハイブリッドモデルにはより小型になった2モーターハイブリッドシステムを搭載。

従来の使い勝手の良さそのままに、乗った人が「心地よい」と感じるような、日常をさらに豊かにするクルマとして生まれ変わります。



### 新型 ACCORD

北米での上市を皮切りに、世界中の発売国・地域で多くの賞を受賞し、高い評価をいただいていた新型 ACCORDを、いよいよ日本のお客様にお届けします。新型ACCORDは、ロー&ワイドなプロポーションと流麗なシルエットに、ゆとりある室内空間を実現。美しいスタイリングや使い勝手の良さだけでなく、リニアで軽快、かつ上質な走りを楽しめる上級ハイブリッドセダンとして、2020年初めに日本で発売予定です。



### Honda e



2019年9月にフランクフルトモーターショーで量産モデルを公開したHonda eを、2020年に日本でも発売します。Hondaの提案する都市型コミューターとして、力強くクリーンな走りを取り回しの良さをモーターと後輪駆動で実現しました。2画面の大型タッチパネルモニターやドアミラーに代わるカメラミラーシステムを搭載したほか、コネクテッド技術や先進のAIを用いた音声認識機能「Honda Personal Assistant(ホンダ パーソナル アシスタント)」でお客様の移動と暮らしをシームレスに繋げることを目指しました。



**mazda**

マツダコールセンター  
フリーダイヤル ☎0120-386-919  
受付時間 平日 9:00~17:00  
土日祝 9:00~12:00、13:00~17:00

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、「第46回東京モーターショー」において、マツダ初の量産EVを世界初公開します。

また、その他出品車としてMAZDA ROADSTER、MAZDA3 FASTBACK、MAZDA3 SEDAN、MAZDA CX-30、MAZDA CX-5、MAZDA CX-8も展示します。

## マツダ、東京モーターショーにて初の量産EVを世界初公開

新型EVは、新たにマツダのカーラインアップに加わる新世代商品の第三弾です。マツダの開発哲学である人間中心の設計思想を基に、EVならではの特性を最大限に活かすことで、ドライバーが自然に、心から運転を楽しむことができる走りを実現しています。



\*報道関係者招待日は10月23日(8:00-18:00) および24日(8:00-11:30)

マツダのプレスカンファレンスは10月23日 11:20-11:35を予定。一般公開日は10月25日から11月4日。

●東京モーターショー2019 特設サイト

日本語サイト(<https://www.mazda.co.jp/experience/tokynomotorshow2019/>)

英語サイト(<https://www.mazda.co.jp/experience/tokynomotorshow2019/en/>)

### 新世代商品第一弾

## MAZDA3

MAZDA3は、新世代ガソリンエンジン「SKYACTIV-X」と新世代車両構造技術「SKYACTIV-VEHICLE ARCHITECTURE」、深化した魂動デザインを採用した新世代商品第一弾です。「日常が鮮やかに輝くパーソナルカー」をコンセプトに、デザイン、走行性能、静粛性、質感などあらゆる領域を飛躍的に高めました。

ファストバックとセダンの2つのボディタイプを設定し、全国のマツダ販売店で販売中です\*。

\*SKYACTIV-X2.0搭載機種の販売開始は、2019年12月を予定しています。



\*写真はMAZDA3ファストバック

### 新世代商品第二弾

## MAZDA CX-30

CX-30は、グローバルに成長を続けるSUV市場を見据えて、新たにラインアップに追加されたモデルです。「人生の幅や世界観を広げるクロスオーバー」をコンセプトに開発したCX-30は、見る人の感性を刺激するデザイン、どこへでも気軽に出かけられる機動性、大切な人とゆったりと過ごすことができる上質な室内空間、誰もが安心して運転を楽しめる安全性能をお客様に提供します。

CX-30は、市場がSUVにシフトしている中、マツダの基幹車種の一つであるCX-5に続き、ブランドを牽引し、今後のマツダのビジネスを支えていく柱のひとつとなる、重要な商品です。10月24日より全国のマツダ販売店で販売を開始します\*。

\*SKYACTIV-G2.0およびSKYACTIV-D1.8搭載機種。SKYACTIV-X2.0搭載機種の販売開始時期は、2020年1月以降の予定です。





三菱自動車 お客様相談センター  
フリーダイヤル ☎0120-324-860  
受付時間 9:00~17:00  
土・日 9:00~12:00、13:00~17:00

三菱自動車工業株式会社は、第46回東京モーターショー2019において、スモールサイズの電動SUVコンセプトカー「MI-TECH CONCEPT (マイテックコンセプト)」及び新型軽コンセプトカー「SUPER HEIGHT K-WAGON CONCEPT(スーパーハイト軽ワゴンコンセプト)」を世界初披露します。また、本年3月のジュネーブ国際モーターショーで世界初披露したミッドサイズの電動SUVコンセプトカー「MITSUBISHI ENGELBERG TOURER(ミツビシエンゲルベルクツアラー)」を日本初披露するほか、プラグインハイブリッドEV「アウトランダーPHEV」、クロスオーバーSUV「エクリプス クロス」、ミニバン「デリカD:5」、軽ハイトワゴン「eKクロス」など、国内で販売する主力モデルも出品します。



## MI-TECH CONCEPT (マイテックコンセプト)

「MI-TECH CONCEPT」は、「光と風を感じながら大地を駆け抜ける電動SUV」をコンセプトとし、軽量・小型化した新しいプラグインハイブリッドEV(PHEV)システム、4モーター方式の電動4WDシステム、先進の運転支援技術と予防安全技術をスモールサイズのSUVに凝縮した、当社ブランドメッセージである「Drive your Ambition」を体現するコンセプトカーです。



## SUPER HEIGHT K-WAGON CONCEPT (スーパーハイト軽ワゴンコンセプト)



「SUPER HEIGHT K-WAGON CONCEPT」は、「いろいろなところに行ってみよう、もっと遠くまで行ってみよう」というドライバーの気持ちに応える新世代のスーパーハイト軽ワゴンです。

スーパーハイト軽ワゴンならではの広々とした居住空間を実現し、同カテゴリーに求められる性能と機能を盛り込みながら、三菱自動車らしいSUVテイストのデザインを実現させました。居住空間を最大化させながら、キビキビと小気味よい走りを実現。また、高速道路同一車線運転支援技術「MI-PILOT」や、衝突被害軽減ブレーキシステム、踏み間違い衝突防止アシストなど「サポカーSワイド」に該当する予防安全技術を採用することで、ドライバーの負担を軽減し、乗る人すべてに安心・安全を提供します。



## MITSUBISHI ENGELBERG TOURER (ミツビシエンゲルベルクツアラー)



「MITSUBISHI ENGELBERG TOURER」は、ツインモーター4WD方式のプラグインハイブリッドEV(PHEV)システムを搭載した、ミッドサイズの新世代クロスオーバーSUVのコンセプトカーです。どんな気象条件や路面状況でもドライバーが自信をもってドライブできる高い走行性能と、PHEVならではの長い航続距離を特長としています。またPHEVシステムを構成する様々なコンポーネントを搭載しながら、3列シートによる多人数乗車を可能とする優れたパッケージングにより、SUVとしての魅力をいっそう高めています。



## 電動DRIVE HOUSE

電動車、V2H充電機器、太陽光パネルなどで構成するV2Hシステムをパッケージ化し、販売・設置からアフターメンテナンスまでをワンストップ化したサービスである「電動DRIVE HOUSE」を、プラグインハイブリッドEV「アウトランダーPHEV」とともに展示します。太陽光発電による電動車への充電や、電動車から家庭への電力供給という流れをビジュアル化し、電気代の節約や緊急時の非常用電源としての利便性など、お客様に様々なメリットを提案します。



三菱ふそう お客様相談センター  
フリーダイヤル ☎0120-324-230  
受付時間 月～金(除く所定の休日)  
9:00～12:00、13:00～17:00

今回は“CHALLENGE THE CHANGES”をテーマとし、暮らしを支える商用車メーカーとして常に社会の変化に先陣を切り対応していく姿を表現します。市場の変化、社会の変化、そして環境の変化に対し、“変化には常に挑戦が必要である”という開拓精神を、変化し続ける世界の映像をクロム仕様の展示車両で反映し、また人を感じて変化するフロアライトを通して演出します。

### 燃料電池小型トラック Vision F-CELL (コンセプトカー)

三菱ふそうは世界初の量産型小型電気トラック「eCanter」を2017年にリリースし、CO2排出ゼロの電気トラック技術のさらなるアップグレードに挑んでいます。三菱ふそうは次世代の電気トラックのコンセプトカーとして、水素燃料技術を活用した燃料電池小型トラック「Vision F-CELL」を東京モーターショーにて初公開します。



**SPEC**  
主な仕様: 電気モーター駆動、燃料電池システム、70MPa対応高圧水素タンク



### 大型トラック スーパーグレート (2019年モデル/市販車)

三菱ふそうが東京モーターショーで世界初公開する「スーパーグレート」2019年モデルは、レベル2相当の高度運転支援機能を搭載した国内市場初の大型トラックです。三菱ふそうはダイムラーグループの一員として自動化技術を共同開発しています。最新鋭の自動化技術を新たに搭載し、燃費向上に加えて安全機能の強化と快適な運転を実現します。

**SPEC**  
車型: FU74HUZ2XVC  
エンジン(10.7L): 6R20(T2) 394KW  
トランスミッション: ShiftPilot®(シフトパイロット®)、12速機械式トランスミッション  
主な仕様: GVW 25t、フルキャブ、リヤエアサス、エコプロ・プレミアムライン

### 大型観光バス エアロクィーン(2019年モデル/市販車)

2019年2月にリリースされた大型観光バス「エアロクィーン」は、「バスコネクト®(Busconnect®)」の搭載を通じたコネクティビティにくわえて最新の各種安全装置を搭載し、安全と人びとを結ぶバスとしてさらにグレードアップしました。

**SPEC**  
車型: 2TG-MS06GP エンジン(出力): 6S10(T2) type (280kW/381PS) トランスミッション: ShiftPilot® 8-speed AMT  
定員(座席+補助席+乗務員): 57 (45+10+2) 主な仕様: プレミアムライン、スーパーハイデッカー、11列シート、サロン、床下直冷



### 小型バス ローザ(2019年モデル/市販車・観光仕様)

2019年10月にリリースされた新型ローザは、三菱ふそうの新たな小型バスとして安全機能を大幅に強化したほか、より快適な乗車体験をドライバーおよび旅行者の双方に提供します。

**SPEC**  
車型: 2RG-BE740GBA  
エンジン: 4P10 (T6) 129Kw (175PS)  
トランスミッション: AMT (DUONIC2.0)  
主な仕様: ロングボディ、29人乗り、室内プロ仕様





UD TRUCKS

UDトラックス広報  
Info.udtrucks.japan@udtrucks.co.jp

いつの時代も、人々の暮らしを支える物流をスマートに。社会課題に革新的なソリューションを。そんな想いを「INNOVATION FOR SMART LOGISTICS - 暮らしを支える物流に、革新を」に込めました。東京モーターショー2019では、「今日」「明日」「未来」の物流・社会へのUDトラックスの取り組みを紹介します。

いまの時代に求められる運転性能、燃費・環境性能、安全性、生産性、稼働率を、一歩先の次元まで高めた商品ラインナップ  
Superior products for today

### Quon GK tractor (Quon GK トラクター)

「人を想い、先を駆ける。」——現代社会の輸送ソリューションに求められるすべてのニーズに応える大型モデル。「誰もが簡単・快適・安全に運転できるトラック」を目指し、燃費・環境性能、安全性、生産性、稼働率に加え、従来にも増して運転操作性の向上に注力しています。



### Quester GW tractor (Quester GW トラクター)

新興国市場向けに2013年に発表したクエスターは、ボルボグループのグローバルな技術と日本のものづくりを結集した、頑丈で信頼性が高く燃費性能に優れた大型トラックです。「クエスター」は、新興国市場向けトラックとしては初めて2019年1月、電子制御式オートマチックトランスミッション「ESCOT」を標準搭載した車両を投入。「ESCOT」とテレマティクスが提供する新サービスによって、より効率的な運転パフォーマンスと燃費向上を支援します。



### 未来のスマートロジスティクスに向けたUDトラックスのコンセプトトラック Re-imagining the truck of the future



### Quon Concept 202X

「Quon Concept 202X」は、202X年を想定した未来のスマートロジスティクスに向けたコンセプトトラックです。AIやディスプレイのパーソナライゼーション、カメラモニタリングシステムなど、近い将来の実用可能性を持つ先進のテクノロジーを搭載し、ドライバーや歩行者との繋がりも意識して開発したトラックです。

### 明日の暮らしを支える次世代技術 Innovation in automation, connectivity and electromobility for tomorrow

#### レベル4自動運転技術実験車両「風神」

一部公道を使用して実施した国内初レベル4自動運転技術実証実験で使用された車両。大型トラック「クオン」をベースに開発され、RTK-GPS（リアルタイムキネマティック全地球測位システム）や3D-LiDARなどの技術を駆使し、自動走行します。



#### ハイブリッド実験車両「雷神」

大型トラックQuonをベースに開発されたクリーン、サイレントでパワフルなハイブリッド実験車両。UDトラックスは、2030年までのフル電動トラック量産化に向けて、エネルギー効率や積載量、航続距離、静粛性を最大限に確保したゼロエミッション大型トラックの技術開発に取り組んでいます。



ヤマハ発動機株式会社  
 コーポレートコミュニケーション部 広報グループ  
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1  
 丸の内マイプラザ15階  
 ☎03-5220-7211 FAX 03-5220-7233

ヤマハ発動機株式会社は、「第46回東京モーターショー2019」に、「人はもっと幸せになれる ~ART for Human Possibilities~」をテーマとするヤマハブースを出展します。ヤマハブース(西2ホール)では、世界初披露のワールドプレミア6モデル、日本初披露のジャパンプレミア2モデルを含む、モーターサイクル、リーニング・マルチ・ホイール(LMW)、電動通勤車、電動アシスト自転車、自律ソリューションビークルなど合わせて18モデルを展示。長期ビジョン「ART for Human Possibilities」を旗印とする、2030年に向けた当社の技術開発の取り組み等をご紹介します。

## Land Link Concept (ランドリンクコンセプト)



周囲をセンシングしながら大地を自在に移動する自律ソリューションビークル。開発コンセプトは、「呼応し合う・LINK」。AI画像認識により自ら走路を判断。行く先を拒む障害物を検知し、自ら避けて走行します。それぞれ操舵・駆動可能な4つの車輪で方向を問わない移動を実現。高い機動力を備え、人とともに作業するために必要な器用さを持ち合わせています。

## E01 (イーゼロワン)



都市間を快適に移動できる余裕を持った、急速充電にも対応した都市型通勤車(エンジン出力125cc相当)です。スクーター技術とEV技術を融合し、日常ユースでの実用性と従来のスクーターを上回る走りの上質感を両立しました。優れたコンフォート性能と、新時代のスポーティーさを特徴的に表現したデザインを採用しました。



## E02 (イーゼロツー)



都市内の移動に最適な次世代電動通勤車(エンジン出力50cc相当)です。小型・軽量で扱いやすいライトなボディに、手軽な着脱式のバッテリーを搭載しています。電動ならではの滑らかな走りを目指し、EVをより楽しく、より身近に感じる新しい価値を提案します。バッテリーとモーターで構成されるパワートレインを視覚化したデザインの採用により、軽快な走りを表現しました。



## YPJ-YZ(ワイピージェイワイゼット)



レースで走ることをイメージしたE-BIKEのレーシングマシンを表現。モトクロス競技専用車「YZ」を彷彿とさせるセンターマスコンセプト(車体の重心に重量を集中させることで運動性能を高める設計思想)を、2本のダウンチューブでバッテリーを挟み込む独自のレイアウトで実現。厳しい路面での安定したコーナリング性能と、軽快な取り回しを実現します。シンプルかつライトな車体は、「YZ」とのリレーションデザイン。楽しく刺激的な非日常体験、未来のFUNを提案します。

## TRITOWN(トリタウン)

LMW機構を備えたフロント2輪の小型電動立ち乗りモビリティ。ライダー自身のバランスコントロールによって姿勢制御を行うシンプルな機構で、ラストワンマイルの移動をワクワク楽しめます。軽く小さな車体とカンタン操作で幅広い人々の利用が可能なことから、現在、国内のレジャー施設や公園等で有用性や集客性、商品性等を検証する実証実験を進めています。



## Ténéré 700(テネレ700)

689cm<sup>3</sup>の水冷直列2気筒270度クランクエンジンを軽量ボディに搭載した、アドベンチャーツアラーです。乗車姿勢自由度の高い車体、耐久性や整備性の高さ、荷物積載時の高い適応力など、オフロード+アドベンチャー+ツーリングの各要素を高次元でバランスさせました。さまざまな軽量化技術を投入した車体は、前モデル「XT660Z」比で約10kgの軽量化を実現しています。なお、2020年夏以降に日本での発売を予定しています。  
 ※欧州仕様

※記載されている所要時間は、おおよその目安となります。

## AOMI exhibition

### 東京ビッグサイト 青海展示棟

-  **りんかい線「東京テレポート」駅下車** 徒歩 約2分  
大崎駅(JR)←12分→東京テレポート駅←7分→新木場駅(JR、東京メトロ)
-  **ゆりかもめ「青海」駅下車** 徒歩 約4分  
新橋駅(JR、東京メトロ、都営地下鉄)←20分→青海駅←10分→豊洲駅(東京メトロ)
-  **ゆりかもめ「お台場海浜公園」駅下車** 徒歩 約6分  
新橋駅(JR、東京メトロ、都営地下鉄)←13分→お台場海浜公園駅←18分→豊洲駅(東京メトロ)
-  **路線バス(東京テレポート駅前)**  
都営バス 品川駅港南口(波01系)から約22分、門前仲町(海01系)から約36分

## ARIAKE exhibition

### 東京ビッグサイト 西・南展示棟

-  **りんかい線「国際展示場」駅下車** 徒歩 約7分  
大崎駅(JR)←14分→国際展示場駅←5分→新木場駅(JR、東京メトロ)  
大崎駅よりJR埼京線に接続。国際展示場駅から渋谷(約20分)、新宿(約25分)、池袋(約31分)、大宮(約56分)、川越(約78分)の各駅を直接結びます。
-  **ゆりかもめ「東京ビッグサイト」駅下車** 徒歩 約3分  
新橋駅(JR、東京メトロ、都営地下鉄)←22分→東京ビッグサイト駅  
豊洲駅(東京メトロ)←8分→東京ビッグサイト駅
-  **路線バス(東京ビッグサイト・中央ターミナル)**  

[都営バス] 東京駅八重洲口(東16系)から約40分 東京駅丸の内南口(都05系)から約40分 門前仲町(門19系)から約30分	[京急バス] 横浜駅東口から約55分	[空港バス] 羽田空港(リムジンバス、京急バス)から約25分 成田空港(リムジンバス)から約60分 (東京ベイ有明フジントホテル発着 下車徒歩約3分)
---------------------------------------------------------------------------	-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------
-  **水上バス「東京ビッグサイト」下船** 徒歩 約2分  
日の出桟橋(JR浜松町駅から徒歩約7分)から約30分  
不定期運行のため、運航状況はweb等でご確認ください。

